



駆け足で秋が深まってきました。
 今月は、東広島地区医師会の 50 周年記念行事
 を中心に、ご報告します。



在宅支援など 地域包括ケアに関して

住み慣れた地域で「自分らしい」暮らしを
 人生の最期まで続けるために・・・

- 東広島地区医師会では、「病気になっても」「介護が必要になっても」住み慣れた地域で誰もが「健康」で「自分らしい」生活を続けることができるように、在宅医療・介護連携を進めています
- もしもの時に備えて、自分が受けたい（受けたくない）医療やケアについて考え、家族や医師と話し合い、思いを共有する取組「ACP：人生会議」の普及啓発に取り組んでいます

地域包括ケアシステムのイメージ



一般社団法人 東広島地区医師会在宅事業所

東広島地区医師会 50 周年

東広島地区医師会は、今年創立 50 周年を迎え、10 月 27 日（日）に 50 周年記念行事を開催しました。地域連携室あざれあは、東広島地区医師会在宅事業所の一員としてポスターを作成し、医師会の地域包括ケアの実現に向けた取り組みを紹介しました。

【ポスター紹介】

東広島地区医師会では、この50年間、地域に暮らす人が「住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができる」ように、「医療」と「介護」の両輪で支えることを目指してきました。

医師会の50年の歩みは、まさに現在国が進めている「病気になっても」「介護が必要になっても」住み慣れた地域で誰もが「健康」で「自分らしい」生活を続けることができる社会「地域包括ケアシステムの実現」につながっています。

このポスターに示す通り、「病気になったら・・・」医療が必要になりますが、日頃から「かかりつけ医」や「かかりつけ歯科」「かかりつけ薬局」を持つことにより、病気についての相談が気軽にできます。また「介護が必要になったら・・・」訪問看護やヘルパー、デイサービスなどの在宅系のサービスや、特別養護老人ホームやグループホームなどの施設系のサービスを組み合わせることで、住み慣れた地域での暮らしを継続することが可能になります。

東広島地区医師会は、安心して在宅療養生活を送ることができるように、1994年 今から30年ほど前に、訪問看護事業所を開設しました。在宅医療を支えるこの訪問看護の事業所も今年30周年を迎え、在宅医と連携しながら地域に暮らす人の療養生活を支えています。また、介護保険制度がスタートしてからは、在宅サービスの調整役であるケアマネジャーが所属する居宅介護支援事業所や、在宅生活を支えるヘルパーが所属する訪問介護事業所も開設し地域の皆さんの「健康」と「生活」をサポートしてきました。最近では、もしもの時に備えて、自分が受けたい（あるいは受けたくない）医療やケアについて考え、医師や家族と話し合い、思いを共有する取組「ACP：人生会議」の普及啓発にも取り組んでいます。何でも相談できる「かかりつけ医」を持ち、必要になれば介護サービスも利用しながら、地域に暮らす皆さんに自分らしい生活を続けて欲しいと思います。

東広島地区医師会は、これから先も 皆さんが住み慣れた地域で「自分らしい」暮らしを人生の最期まで続けることができるように、各機関と連携を図りながら支えていきます。